

## 2020年の振り返り

### 非財務

#### 総括

- 2020年度までの温室効果ガスの排出ネットゼロ：カーボンニュートラルの達成を宣言した。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大がもたらす新常态（ニューノーマル）を見据え、新型コロナウイルス収束後の「新しい働き方」を企業存続のための永続的な取り組みと位置づけ、全社方針を策定した。
- Specialty-Fusion Companyとして「本質的に必要な仕事」とは何かを徹底的に追求し、各人の最も効率的な働き方を選択することにより、生産性向上と会社全体の競争力強化に繋ぐ取り組みを開始した。
- 政府要請に基づく「アビガン®錠」\*原料（マロン酸ジエチル）を供給した。

\*「アビガン」は富士フィルム富山化学(株)の登録商標です。

#### プラスの要因

- 2020年度カーボンニュートラル実現を宣言
- TCFDへの賛同
- 新青海川水力発電所での送電開始
- ケミカルリサイクル事業化検討着手
- テレワークの実践
- 健康宣言
- マロン酸ジエチル生産を通じた社会貢献

#### マイナスの要因

- 対面でのお客様対応ができない  
対策 **■ オンライン化推進(会議、研修、営業・技術サービス)**  
**■ Webカメラでの操業、工事管理**
- 対面での会議、研修ができない
- 紙やハンコの使用前提の業務ができない  
対策 **■ 書類、決裁、受発注の電子化**
- 感染者(クラスター)が発生するリスクの浮上  
対策 **■ 感染を防ぐ3段階の社内警戒レベルを設定**  
**■ 日勤者のテレワーク実施**  
**■ Webカメラでの操業、工事管理**
- 工場で感染者が発生し、操業停止となるリスクの浮上  
対策 **■ 遠隔操作と情報共有の強化**  
**(センサー設置拡大、電子ホワイトボード設置)**
- 事業が停止するリスクの浮上  
対策 **■ 借入枠の強化や手元資金の確保**  
**■ サプライチェーンの定期的リスク評価の実施**

### 財務

#### 総括

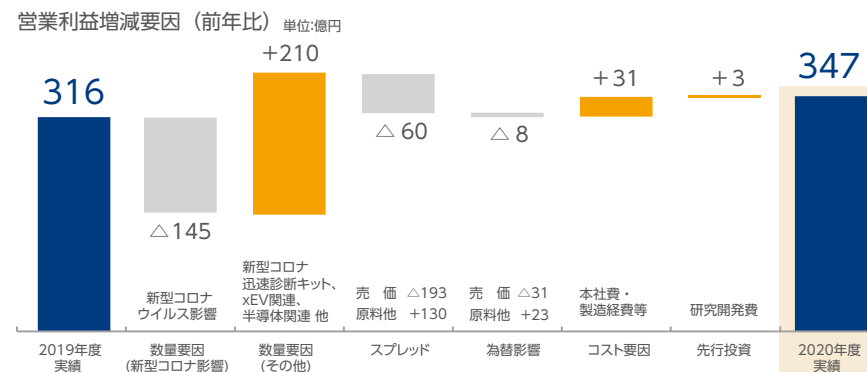
- 2020年度前半は感染症拡大の影響により需要が減少。その後自動車や半導体向けを中心に回復し、企業収益全体として底堅く推移した。
- 5G、xEV関連等の環境・エネルギー分野において安定した収益を出した。需要の変化が大きいヘルスケア、食品包材等において、社会の要請に迅速かつ確実に応えることができた。

#### プラスの要因

- 新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの販売開始
- 環境・エネルギー分野の需要伸長(車両電動化・5G化の加速、半導体需要増)
- 本社費・工場固定費の見直し

#### マイナスの要因

- 一時的なクロロプレンゴムの売上減
- COVID19向け以外の検査試薬の売上減



2020年度は、環境・エネルギー分野では、xEV・半導体・5G通信・再生可能エネルギー関連製品の需要が伸長。ヘルスケア分野でも、8月に発売を開始した新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの出荷が大きく業績に寄与した。その結果、新型コロナウイルスによるマイナス影響を、スペシャリティ事業の伸長によるプラス影響が大きく上回り、営業利益は前年度比31億円増の347億円となり、過去最高益を更新した。